

**授業計画概要 – 演技**  
**Stone Wings Acting School**

**予定** – 2日間のワークショップは3時間のセッションを一日2セッション、合計4セッションで構成。

**一日目の概要**

**教師の目標（ねらい）：**

- \*体内における呼吸と発声の力強い結びつきを生徒に教え、更にこの結びつきをテキストと連動させる。
- \*体内から感情を引き出すことができ、テキストを通して呼吸と発声の結びつきをもたらすことができる。
- \*テクニックをテキストと結びつける。生徒が自分自身とテキスト双方に関連づけて演技できるように。
- \*演出の指示にあわせて良い演技をする。
- \*自分たちの学びを自分で分析できる。

**1日目 – セッション1と2の概要**

**セッション1** – セッション1はオーストラリアンテクニックの習得に焦点を当てる

このセッションは以下の内容を含む:

- 呼吸法のための立ち方と体の開き方の指導
- 心身をゆるめる呼吸法
- 空気を取り込み、体内に落とす
- 呼吸と発声の結びつき
- チャクラコネクションエクササイズ
- 俳優にとっての感情エクササイズ
- 英語または日本語での独白
- オーストラリアンテクニックを独白に応用させる
- 与えられた独白の台詞においてオーストラリアンテクニックのプロセスを経験する

## セッション2

セッション2は演技に焦点を当てる。俳優は舞台装置の中で、教師からの補助・明確化・演出を踏まえて選択した独白を演じることになる。

このセッションは以下の内容を含む:

- 一人芝居を演じようとする際、生徒がいかに自分自身を表現すればよいのか
- 先立って必要とされるテキストの背景への理解
- テキストを使いながら呼吸・発声をうまく結びつけるにはどうすればよいのか
- 彼ら自身がテキストの言葉とどううまく結びつけるか
- よりよく演じ、更に演技を自分自身で分析できるようになるには
- どのように演出に基づいて演じるか。特に、サブテキストに関して。
- オーストラリアンテクニックを使い演技する上で、そのステップを明確に書き出すことができる

## 2日目の概要

### 教師の目標 (ねらい) :

- \*カメラの前で演技を行う間、理論と実践に焦点を当てる
- \*カメラの前での演技についてどのようなスキルを生徒は知っているか? どのようなメッセージを得ているだろうか?
- \*演技を向上するため、知る必要のあるスキルは何か?
- \*実技演習を通し、俳優はカメラの前で台本を使って、教わったスキルを元に演じる
- \*スキルは台本を通して演じる中で、彼らに伝わり、機能する。

## 1日目 - セッション1と2の概要

### セッション1 - カメラでの演技

このセッションは以下の内容を含む:

- \*カメラの前にいる時、どのように感じるか話し合ってみる
- \*特定の課題に沿って、カメラの前で即興の演技を行う
- \*以下を導入・指導する: 驚嘆、願望、様々な感情の演技、シーンを盛り上げて次にバトンを渡す、表情の表現とキャラクターへの意識
- \*短いシーンを演じてみて、演じる際に適切な判断をする
- \*講義の復習

## セッション2

このセッションは以下の内容を含む:

教師は以下を教える:

1. 地に足つけさせる
2. シーンの中で変化を加えられる
3. いざというときに強くなる (シーンが始まる時にリスクを取れる)
4. 自然な動き

俳優は短いシーンを演じ続け、その際に種々の決断を続けている。  
俳優と教師とで学びを復習してみる。